



## 介護の仕事に就いて

グループホーム花みずき スタッフ 中島 正俊

私がグループホーム花みずきで、介護の仕事をしてから1年と3ヶ月ほど経ちました。今まで介護の仕事の経験がなく、こちらのグループホームでお世話になってから初めて介護の仕事をして頂くようになりました。以前は運送会社で働いていたのですが、一身上の都合により退職しました。失業した私はハローワークに通い、そこで失業給付を受けながら、ホームヘルパー2級の資格を取ることができる職業訓練があることを知りました。以前から介護の仕事には興味があり、日本社会の高齢化がどんどん進んでいく中で少しでも高齢者の役に立てればと思い、今年の1月から3ヶ月間、職業訓練を受けました。その時、実習先としてお世話になったのが「花みずき」でした。

実習初日の前夜に、入居者Cさんが転倒され救急車で病院に運ばれました。そんな大変な時に私のような実習生がお世話になったのですが、当時は先輩スタッフにかなり迷惑をかけたと思います。Cさんにはお会いすることがなかったのですが、その後花みずきには戻られずに退所されました。

その後に入所されたのがKさんでした。今年の春に、私が初めて花みずきで仕事をさせて頂く入社日と全く同じ日でした。Kさんは帰宅願望が非常に強く、風が強かったり雨が降っている日でもユニットから出て行こうとされていました。



ある日、Kさんがユニットから出られた際、私がついていくことになり、携帯電話を持ってユニットといつでも連絡をとれるようにしていました。当時の私はKさんをユニットに連れて帰ることに必死で、Kさんの気持ちを考える余裕などありません。交差点で車がたくさん通っているなかで、Kさんは赤信号でも平気で渡ろうとされていました。危ないと思いKさんを道路の端に連れていこうとしましたが、交差点の真ん中で、車の運転手や乗っている人に「助けて、助けて」と手をふって叫んでいました。車で通行している人には、私がKさんに何か悪い事をしていると思われたかもしれません。しかしKさんにしてみれば不安な気持ちが大きかったのです。Kさんが少し落ち着いた際にユニットと連絡を取り先輩スタッフに迎えに来てもらいました。Kさんはその後花みずきを退所され、別の施設へ移られました。

ある日、私が夜勤明けの朝7時頃Cさんの家族さんから電話があり、Cさんが亡くなられたと知りました。今思えば、個人的に不思議な縁を感じたCさんとKさんでした。

これまで花みずきで認知症の利用者さんに関わってきましたが、



認知症の方のケアを通じて、その方が今何を考えて、何をしようとしているのかを常に観察しています。認知症になると被害妄想や幻覚などが出現したり、暴言、暴力、徘徊なども起こります。

認知症の原因になる病気について正しく理解して対処することが大切だと思います、将来的には原因となり得る病気等も勉強したいです。そして認知症の方をしっかりと支援できるように、この仕事を続けていきたいと思っています。

中島さんが新しい職場として介護の世界に入って来られ、私達のグループホーム「花みずき」を選んで下さって、これも不思議な縁ですね。認知症という疾患と患者を正面から受けとめて、自分も成長してゆこうという姿勢に感動しました。

いろいろ経験してゆくと、「暴言や暴力」という言葉も、介護者側が名づけた結構あいまいな表現だということになるのでしょうか。生活者自身にとっては当然の心の動き、行動なのかもね。一緒に考え、行動してゆきましょう。 (大)